

県立大「はばたきカフェ」

# 非常食片手に防災議論



## 被災地 視察 専門家が報告

県立大（静岡市駿河区）は14日、学生や教職員が軽食を片手に語り合う「はばたきカフェ」を同大で開き、大地震発生時の学生や教職員が果たすべき役割などについて議論した。

東日本大震災を受け、生や教職員約80人が集まり、地下1階の食堂に学び、震災時の心得などに

ついて、おにぎりや非常食を取りながら話し合った。ゲストとして招かれた県地震防災センターの望月政俊所長代理は、視察した岩手県山田町の悲惨な状況を報告した上で、「いくら防災グッズなどを用意しても、命が助からなければ意味がない。自分の命は自分で守ることが重要だ」と訴えた。

被災地でボランティア活動に参加した学生は、さらなる被災者支援を訴え、夏休みを利用してボランティアに参加

災害時の心得などについて語る望月所長代理（左）

静岡市駿河区の県立大

加することを呼びかけた。「はばたきカフェ」は昨年度から始まり、本年度は5回の開催を予定している。